

## 巻 頭 言

帝塚山大学心理学部紀要第5号の刊行にあたり、関係各位のご尽力に心より感謝申し上げます。さて、本学部はその前身である心理福祉学部の発足以来10余年を経過し、すでに1000名を超える卒業生を数えるに至りました。また、人文科学研究科臨床社会心理学から心理科学研究科に改称した大学院も設置以来100名の修了生を数え、博士学位を取得した者や、生理・知覚など科学的な心理学の知識を活かして企業に就職した者、養成課程を終えて臨床心理士資格を取得した者など、多くの修了生が社会の第一線で活躍を続けております。

この間、本学部は「社会に貢献できる心理学」を標榜し、研究と教育を進めてきたのですが、大学付属施設である「心のケアセンター」をはじめ、交野市や生駒市など学校教育現場や、香芝市保健センターの臨床心理部門など、周辺地域における心理的支援活動は年々拡大の一途をたどっております。また、臨床領域における活動だけではなく、コミュニティの安全にかかわる交通心理学研究や、地域の活性化を支援する「地域マイスター講座」など、心理学の知見を用いた活動も幅広く行っております。

さて、短期間でこのような発展を遂げた背景には、心の問題に関する社会的な関心の高さがあったものといえましょう。毎年3万人近くにのぼる自殺者や10万人を超える不登校の子どもたち、年々増加する虐待事例、社会問題化している引きこもりの若者たち、など心理的支援を必要とする問題は年々増加の一途をたどっており、昨年、心理専門職の国家資格に関する法律（公認心理師法）が制定されたことも、このような社会情勢を反映したものといつてよいでしょう。心理学に対する社会的ニーズが今ほど高まっている時代はかつてなかったかもしれません。別の言い方をすると、心理学に何ができるのかを社会から問われていると考えることもできるのですが、我々にはその問いに応える準備ができているのでしょうか。この点について少し考えてみたいと思います。

帝塚山大学は「国家・社会の負託に応える有為の人材を育成する」という建学の精神のもとに教育を行ってきました。心理学部では、この目標を達成するべく、これまで基礎から臨床・応用分野にわたる幅広い専門領域の内容をバランスよく教育することを重視し、カリキュラムや教員の配置もその目的に沿って、できるだけ偏りのないように進めてきたものと自負しております。また、研究室の中だけではなく、地域の現場で実践を通じた研究・教育を行うという学部の基本姿勢は、心理学の学びを通じて社会に貢献できる人材を輩出するという成果につながり、卒業生たちは企業や行政機関、福祉・医療など様々な職場で活躍を続けております。先の問いへの答えは彼らが示してくれることでしょう。

研究と教育に裏付けられた実践力は、大学に求められる現代的課題であり、心理学を介してそれを実現してゆくことは本学部の責務でもあると心得、これまで培った実績と経験を活かし、今後も教職員の協働体制の下、心理学の研究・実践を通じて地域に貢献してゆく努力を続けていきたいと思っております。

帝塚山大学心理学部

学部長 神澤 創